

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	武蔵村山市環境審議会
開 催 日 時	平成29年12月22日（金）（午前10時～正午）
開 催 場 所	301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：峰岸宏幸委員、渡辺彩委員、中島繁治委員、栗原誠委員、熊木正好委員、比留間英世委員、中尾信行委員、大坪満委員（出席者計8人） 欠席者：辻博行委員、網代英之委員（欠席者計2人） 事務局：協働推進部環境担当部長、環境課長、環境課主任（環境保全グループ）（事務局計3人）
議 題	1 会長及び副会長の互選について 2 平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）の環境指標及び環境施策の点検・評価について
配 布 資 料	（当日配布） ・次第 ・武蔵村山市環境審議会委員名簿 （事前配布） ・武蔵村山市環境基本条例 ・武蔵村山市環境審議会規則 ・武蔵村山市環境審議会の会議の公開に関する運営要領 ・平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題1：会長に熊木正好委員、副会長に比留間英世委員を選出した。 議題2：市長からの諮問を受けて、環境審議会委員が「平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）」の事業実施報告及び重点的取組実施報告について審議した。結果、点検・評価が全て終了したため、後日、市長へ答申することとした。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （○ 委員、 ● 事務局）	議題1 会長及び副会長の互選について 会長に熊木正好委員、副会長に比留間英世委員を選出。 議題2 平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）の環境指標及び環境施策の点検・評価 【説明要旨：平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）を参照】 ● 平成28年度武蔵村山市第二次環境基本計画に基づく報告書（武蔵村山市年次報告書）（案）の内容と評価について説明。 【主な意見等】 ● 聞きなれない言葉もあるかと思うので、素朴な質問として問合せいただければ、内容を含めて回答する。 ○ 12ページ環境指標「親水緑地広場の箇所数」とあるが、親水緑地広場とはどのような場所か確認したい。 ● 本市は多摩川水系と荒川水系の分水嶺となっており、多摩川水系の残堀川、荒川水系の空堀川が都の管理している一級河川となっている。残堀川は平成7年頃に北多摩北部建設事務所によって河川整備がされ、その後の管理を市が行っている。そのような親水緑地広場を、都に7箇所整備してもらっている。空堀川は河川整備の用地買収が都で進めており、下流域の

東大和市では河川拡幅工事が実施済である。本市では、未だに神明の一部地域の拡幅工事がされていない状況である。都の用地取得の中で、神明運動広場及び中砂児童遊園が河川用地となることから、公園等を廃止することとなり、都の河川整備に合わせて親水緑地広場を整備するよう依頼している。

- 12ページ環境指標「親水緑地広場の箇所数」において、目標値の8箇所、空堀川水系の整備予定地の1箇所を計画しているということでしょうか。
- お見込みのとおり。
元々、第二次環境基本計画を策定する際に、親水緑地広場を残堀川水系に7箇所整備しており、計画期間内に空堀川水系へ1箇所以上整備することを目指している。都が整備するにあたり、市で用地取得に協力をする等取り組んでいるが、未だ整備を終えていないため、Cの評価とした。
- 8ページ環境指標「グリーンヘルパー（1級）人数」に28年度の実績で1名とあるが、24ページ環境施策の方向と市の取組に記載のあるグリーンヘルパー1級育成講座に参加した19名の中からなったのか。
- グリーンヘルパー1級資格を取得するための講習は28年度に実施し、29年4月のタイミングで資格の登録をされたため、29年度の実績として次回計上される。そのため、この1名はそれ以前の講習会受講者である。
- グリーンヘルパー1級は市の基準による資格なのか。
- 市の緑を守ることを目的に、園芸や樹木に関して指導ができる者とし、市内部の基準として設けている。里山民家のボランティア受講者や大学で当該分野の講義受講者等をグリーンヘルパーの有資格者としている。
なお、この制度とは別に公園・緑地ボランティアが、公園の清掃や花壇の維持管理等を行っている。
- 9ページ環境施策の方向と市の取組「河川の水質保全に努めます。」において、東京都へ要望活動を行ったとあるが、どのような内容か。
- 残堀川で言えば上流の瑞穂町や立川市を流れるので、合同で水質検査及び生物調査を行っており、その結果を都へ報告するとともに、水量が乏しい旨を伝え、水が絶えず流れるような工夫ができないかを要望している。
下水道の整備前は、家庭の生活排水が川に流れ、河川の水は汚れるものの水量は十分であった。今は、生活排水は下水道へ流れるため、河川には雨水しか溜まらない。
また、多自然川づくりの考え方から、川底にあえて自然を残すことで、保水につなげ、生き物が住める環境づくりを図っている。
- 8ページ環境指標「公園・緑地等のボランティア人数」は、登録人数なのか、活動された延べ人数なのか。
また、環境施策と市の取組「ボランティアと協働した公園・緑地等の維持管理、ボランティア育成に努めます。」において、ボランティアの育成とはどのようなことを行ったか。
- 1点目については登録人数である。
2点目は、公園にボランティア自身が携わる花壇を作ってもらった。単に市が必要なものを提供するだけでなく、自分達で維持管理をすることで意識付けを行った。
また、学生による職場体験やインターンシップを絡め、花植えを実施する際はグリーンヘルパーに指導してもらおう等、多様な人を巻き込んで植栽を実施した。
- 8ページでは環境指標に「目標」「現状」「28年度」とあり、9ページ以降は「目標」「26年度」「28年度」となっている。基準年としてはどのように捉えているのか。
- 8ページの「現状」に関しては、脚注にあるものは23年度を現状として捉えていることから、26年度を基準年度して表記できるものはそのように表記している。

- そのような事由であれば、「基準年」とするのが適切かと思うので、訂正を検討いただきたい。
 また、同環境指標「都市全体の緑化総量（緑被率）」は、10年間の増減によって確認することから、現在は評価できないのではないかと。
 同環境指標「保存生け垣の延長」においては、基準年よりも減少しているので、評価としては未着手の案件より悪いという考え方もある。加えて、環境指標では生け垣4,409mとあるのに対し、同ページ環境施策の方向と市の取組「保存樹木・樹木の保全に努めます。」では4,410mとあり、差が生じているので訂正願いたい。
 なお、環境指標でCと評価している中、市の取組でBと評価するには、保存樹林や樹木の整備が前年比較で進行していないと難しいかと思う。
 前年比較をし、読み手が理解しやすいようにマニュアルレポートとしての工夫がほしい。
- 指摘のあった箇所の訂正を図る。評価見直しについては検討する。
- 14ページ環境指標にある公共施設は、武蔵村山市内のものに限るのか。
 本来、この項目は市単独で評価することは難しいと思うが、「－」ではないのか。
- 地球温暖化対策の推進に関する法律において、事務事業編として、自治体を一つの事業所に見た上で、CO₂排出の削減を求められている。
 なお、区域施策編として、地域の中から排出されるCO₂排出の削減の取組を求められているが、本市では努力義務の扱いであるためそこまで至っていない。
 この項目においては、市の環境基本計画に則り、市の公共施設及び庁用車のCO₂排出量を計上している。
 なお、本市が関わっている一部事務組合は、一部事務組合が個別に取組を実施し、算出していると思う。
- 温室効果ガスの排出量は、どのように算出しているのか。計測器による測定なのか。
- 計算式によって使用量を見ている。
 例えば、石油系でもガソリンや重油等の様々なエネルギーがあり、純粋に使用量だけを見るのではなく、係数をかけ合わせ、最終的にCO₂排出量に換算している。
- 19ページ「13 環境への負荷の低減とごみの適正処理」の環境指標に、最終処分量が二段に分かれて記載されているが、違いがわかりにくく脚注を入れてもらいたい。
- そのように訂正する。
- 17ページ環境指標「排出物原単位」がC評価であり、市の取組「ごみの排出抑制」において、生ごみ処理機器購入補助金制度の申請実績が11件である。このままで、指標がB評価となることは難しいと見受けるが、市はどのように捉えているか。また、普及啓発により力を入れてほしい。
- ごみの排出抑制のために様々な施策を展開しており、御指摘いただいた事業は、数値的な効果は見られないが、28年度実績として掲載している。
 各年度で対応可能な予算も限られていることから、毎年の実績を積み重ねて効果を示していきたい。
 また、補足として、従来は生ごみの堆肥化を推奨していたが、宅地化が進み、マンション在住の世帯が増加している。マンションでは堆肥を効果的に活用することが困難であるため、生ごみの水気を切ることを推奨し、容量のコンパクト化や焼却にかかるエネルギーの軽減を試みている。
- 26ページ環境施策の方向と市の取組「学校等への環境教育人材の派遣を行います。」において、出前講座は28年度実績なしとあるが、学校等から依頼はなかったのか。また、市から周知等の働きかけはしていないのか。前年実績についても確認したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 出前講座は、市全体で様々なものを実施しているため、市の広報所管を通じその周知をしているところである。ここ数年、学校から依頼は無い。学校のカリキュラムに影響が出るところから、要望をしていないのではないかと思う。環境教育としては、市の環境状況をまとめた「環境副読本」を発行し、各校に配付している。 ○ 環境副読本について、報告書に掲載したらどうか。 ● 御指摘いただいた人材派遣に関する項目でなく、他の項目において記載したいと思う。 ○ 武蔵村山市民は自然とともに生きてきた。環境教育の一環として「以前は○○であった。今は△△である。」という歴史観を体験したり、時系列で把握できる資料があるとよい。実体験で経験した物事は記憶に残りやすいので、検討いただきたい。 ● 検討したいと思う。 ○ 以上で年次報告書（案）の点検・評価を終了する。今後、御指摘いただいた点を踏まえ、会長と事務局が報告書（案）を修正した後、市長へ答申をする。 <p>【その他について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次回の審議会は、29年度実績の点検・評価でよろしいか。また、その時期の見込みを確認したい。 ● ここで新たな計画を策定する時期ではないので、29年度実績の点検・評価を、平成30年10月頃に開催したいと考えている。 ○ これにて武蔵村山市環境審議会を閉会する。 <p style="text-align: right;">—以上—</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： _____ 0 人
-------------	---	----------------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等： _____） <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等： _____）
--------------	---

庶務担当課	協働推進部	環境課	（内線：295、296）
-------	-------	-----	--------------

（日本工業規格A列4番）